

会

報

社団法人 日本病理学会  
 〒 113-0033  
 東京都文京区本郷 2-40-9  
 ニュー赤門ビル 4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 232 号

平成 19 年 (2007 年) 5 月刊

## 1. 理事会, 学術評議員会および総会

平成 19 年 2 月 13 日に東京・学士会分館, および 3 月 12 日に大阪国際会議場にて理事会が開催され, 3 月 13 日には学術評議員会・病理専門医部会, 3 月 14 日には総会が開かれた。総会の席上で, 第 8 回 (平成 18 年度) 学術奨励賞授賞式が行われた。

これらの理事会, 学術評議員会および総会では, 理事長, 委員会委員長および部会長の報告があった。

協議事項としては, 総会においては新名誉会員 34 名の推薦者並びに新学術評議員 31 名の候補者が協議され, それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。

このほか, 理事会では, 常置委員会学術評議員新委員の選出, 平成 17 年度下期の新入会員 44 名 (年度合計 222 名) が, それぞれ原案のとおり承認された。

なお, 役員の前年に関する定款細則の改定案についても, 理事会・総会にて原案どおり承認されたので後掲する。

また, 学術評議員会では, 「病理学会カンファレンス・病理技術講習会について」(岡田学術委員長), 「病理学会人材育成について」(深山企画委員長) などが, 病理専門医部会では, 「病院の機能表示 広告規制緩和について」「診療報酬改定に向けて」(黒田病理専門医部会長) など, それぞれ報告・討議が行われた。

## 2. 学術集会

### (1) 第 96 回総会 (平成 19 年度)

大阪大学を世話機関として青笹克之会長, 寺田信行副会長・仲野 徹副会長のもとで, 平成 19 年 3 月 13 日 (火) ~ 3 月 15 日 (木) の 3 日間, 大阪国際会議場にて開催された。

宿題報告は, 白井智之教授 (名古屋市立大学) による「前立腺癌の発生・進展とその予防に関する基礎的研究」, 内藤眞教授 (新潟大学) による「マクロファージの分化・機能制御機構と疾患」, 高松哲郎教授 (京都府立医科大学) による「不整脈源性基質を求めて—バイオフォトリクスを用いた心臓病理学—」の 3 題であった。

特別講演は, Vinay Kumar 博士 (University of Chicago, USA) による「Origin and Evolution of Robbins Pathol-

ogy and speculations on the medical texts of the future: A personal perspective」, 長田重一教授 (大阪大学) による「アポトーシス細胞の貪食とその異常」の 2 題であった。また教育講演は, 高田賢蔵教授 (北海道大学) による「EB ウイルスと癌」, 田島和雄部長 (愛知県がんセンター研究所) による「病理学と疫学の接点を模索する民族疫学」, 青笹克之教授 (大阪大学) による「膵胸関連リンパ腫 (Pyothorax-associated lymphoma: PAL) ー新しい疾患単位の確立」の 3 題であった。その他, ワークショップ 9 件, 日独病理交流セッション, シンポジウム (日英シンポジウム・アジアシンポジウム含む) 3 件, コンパニオンミーティング, 学生ポスター発表が行われた。一般演題は 1,048 題が発表された。

また, 系統的病理診断講習会 (腎・腎盂, 尿管・尿道の腫瘍 前立腺, 膀胱の腫瘍 精巣・副睾丸の腫瘍) および臓器別病理診断講習会 (婦人科・呼吸器・消化管・皮膚・細胞診・乳腺・骨軟部) が開かれた。

(2) 今後予定されている総会は以下のとおりである。

### 1) 第 53 回 (平成 19 年度) 秋期特別総会

世話機関: 東京医科大学

会 長: 向井 清教授

会 期: 平成 19 年 12 月 6 日 (木) ~ 7 日 (金)

会 場: 江戸川総合区民ホール (タワーホール船堀)

### 2) 第 97 回 (平成 20 年度) 総会

世話機関: 金沢大学

会 長: 中沼安二教授

会 期: 平成 20 年 5 月 15 日 (木) ~ 17 日 (土)

会 場: 石川県立音楽堂他

### 3) 第 54 回 (平成 20 年度) 秋期特別総会

世話機関: 愛媛大学

会 長: 植田規史教授

会 期: 平成 20 年 11 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金)

会 場: 松山市総合コミュニティセンター

### 4) 第 98 回 (平成 21 年度) 総会

世話機関: 京都大学

会 長: 真鍋俊明教授

会 期: 平成 21 年 5 月 1 日 (金) ~ 3 日 (日)

会 場: 京都国際会館

### 3. 常任理事会報告

#### 1. 長村義之理事長（理事長報告 企画委員会 広報委員会 国際交流委員会 教育委員会 支部委員会）

##### ① 理事長報告

- 1) 平成 18 年度より新規に大学病院に認定施設番号をつけるにあたり、従来の市中病院の認定施設番号とは別にして、大学関連施設であることが認識できるようにすることにした（地区番号の次に 9 を入れる）。すでに認定証を病院長宛に送付済みである。
- 2) 癌取扱い規約小委員会の坂本委員長より要望のあった「卵巣腫瘍取扱い規約」の改訂に際しての病理側委員の増員につき、長坂徹郎、安田政実の両学術評議員を了承した。病理側の委員長には本山悌一学術評議員があたることも了承した。また、今後の改訂作業を日本婦人科腫瘍学会主体で進める方向を了解した。
- 3) 昨年の秋期特別総会時に会員より提案された講演のビデオ収録について検討したが、画質の問題やコストがかかることから見送ることとした。
- 4) 厚生労働省医療課課長と面談するにあたり、稲山社会保険小委員会委員長作成の要旨に基づいて今後の要望方針を検討した。面談では、病理診断料を別項目(第 13 部)にすることを中心に要望し、医療課からは診療報酬は患者の流れに則して設置されること、また、標榜料の取扱いも患者の視点からおこなわれるべきであることの説明があった。病理の開業については、衛生検査所での病理診断の現状について説明した。
- 5) 12 月 20 日に開催された厚生労働省がん対策の推進に関する意見交換会（ヒアリング）には深山副理事長が参加し、病理診断の重要性について発表した。病理医不足については具体的に述べて欲しいとの出席委員の発言があった。
- 6) がん拠点病院にバーチャルスライドを導入することについては、厚生労働省より自治体に発信したお知らせを病理学会ホームページに転載した。現在 86 施設からの申込があるとのことである。
- 7) CAP より Proficiency Test (PT) を日本の精度管理へ導入してはとの働きかけがきておりその資料を閲覧した。対応については検討中である。
- 8) 医療関連死に関するモデル事業について黒田理事より、今までの案件につきアンケートをとって問題の洗い出しをしているとの報告があった。
- 9) 脳神経外科学会に対して「脳腫瘍取扱い規約」の改訂の検討を依頼することにし、中里洋一群馬大

学教授の提案を基に依頼書を脳神経外科学会吉本高志理事長に提出した。

- 10) 専門医認定制機構の協議委員は、長村理事長から黒田病理専門医部会長に交代した。
- 11) 臨床系学会連絡会議については多くの臨床系学会が参加している現状から日本病理学会も参加することとした。
- 12) 研究発表の倫理については学術会議からも通達があるので、病理学会倫理委員会に研究倫理を討議する役目のあることを確認し、具体的案件の調査・審判ではなく、結論の出た事例に対しての学会の対応を審議依頼することとする。
- 13) 日本学術会議病態医科学分科会については 2 月 10 日の委員会に長村理事長が出席した。深山副理事長と藤田眞幸教授（慶應大学法医学）に「病理と法医学の連携についての公開講座」を依頼した。病理学と基礎研究分野との連携は、鍋島陽一教授（京都大学）が病理学会総会時に合同シンポジウム開催を申し入れることとなった。
- 14) 日本専門医認定制機構については 3 月 5 日の総会に長村理事長が出席し、その報告があった。基本学会の研修領域の整理をしていくことになっている。
- 15) 日本がん治療認定医機構より連携・協力および機構関連学会連絡委員会への参加要請があったのでいずれも諾との返事をする事とした。
- 16) 病気腎移植については宇和島徳洲会病院の専門委員会に井藤久雄倫理委員長が加わっている。移植学会より、病気腎移植に関して統一見解に加わるかどうかの問い合わせがあったので理事会に諮り、当面加わらず、協力的な立場で対応することとした（現在でも 5 学会には加わっていない）。

##### ② 企画委員会

###### 1) 若手のリクルートに関する活動

若手医師確保に関する小委員会を設置し、大橋委員長のもとで活動が行われている。

- ・全国の大学病院を対象にした病理研修に関するアンケートを実施した(回収率は 82.5%)。病院を対象にした以前のアンケート結果も合わせて HP など何らかの形で公開する予定である。それによると、全国的には約 90 名の初期研修が病理を選択し、平成 18 年には 31 名が病理の後期研修医となっている。また、後期研修医を採用した大学では初期研修で病理を選択している人数が多い傾向にある。
- ・7 月のレジナビフェアへ（学生対象）に参加する予定である。

- ・ 昨年のパンフレットの増刷および、新たに学生・研修医向けのパンフレット (A3 二つ折) を作成する予定である。
  - ・ 学生、研修医向けの HP の改訂を検討している (広報委員会への申し入れ)。
- 2) 診断病理サマーフェスト：病理と臨床の対話  
真鍋委員長のもと、5名の委員で準備・計画しプログラムが作成された。パンフレット・申し込み用紙を作成 (2000 枚) し、病理学会、放射線学会、婦人科腫瘍学会において配布する予定である。
  - 3) 出版物  
文光堂から、腫瘍鑑別シリーズに関する編集協力の依頼があり、理事会に諮り、同社のアトラス刊行委員会への委員の推薦を行うことになった。
  - 4) 100 周年記念行事  
実行委員会の立ち上げ、委員会の会則やスケジュールに関して検討していく。具体的には記念誌と記念式典が考えられる。
  - 5) 病理学会機構改革  
学会員の増加、学会活動の促進を図るため現在の学術評議員のあり方などを検討していくことにしている。
- ③ 広報委員会
    - 1) 追悼記事をホームページに掲載する欄を設ける。関係の方で話し合いの上、一編の記事として投稿してほしい。投稿の規定はホームページに掲載している。
    - 2) ホームページの運営をサポートするパート職員を採用することとした。これにより、ホームページの内容の改善をはかりたい。
  - ④ 教育委員会
    - 1) 病理各論コア画像をホームページに掲載した。CD 化し、広く販売する予定であり、各大学、支部 (病院用) に案内をすることとしている。
    - 2) 第 9 回教育ワークショップを開催する。9 月 15 日 (土) 9:00~17:00 藤田保健衛生大学 (予定) において、テーマ「特色ある病理学卒前教育」を予定している (9 月 23 日に開催日変更)。
  - ⑤ 国際交流委員会
    - 1) 日本病理学会会員海外派遣事業では 2 名を派遣すること決定した。
    - 2) 日本病理学会海外病理学会参加支援事業では 4 名に補助金を支出することを決定した。
    - 3) ドイツとの交流事業は、今後も合同シンポジウムを開催するなど継続することにした。
    - 4) 英国との交流事業は、今後形態を変えることも視野に入れ継続していくことを検討している。
  - ⑥ 支部委員会
    - 1) 病理医の適正配置について  
新卒後臨床研修制度および必修化に伴い、病理学領域に入る人材が著しく減少している状況や、診断病理医の高齢化が進んでいる中、各地域において、病理医の数、仕事量などを継続的に調査、把握していく必要があることが確認された。
    - 2) 病理各論コア画像の CD の販売に協力することにした。
2. 真鍋俊明常任理事 (財務委員会)
    - ① 今回の学術集会が 3 月半ばに開催されるため、平成 18 年度の収支決算報告を行うことができない。そのため、決算については、来る 5 月 22 日 (火) に臨時決算総会を開催し、議決を願うこととせざるを得ない。開催にあたっては、日時、場所の連絡と出欠、委任状のはがきを送ることになる。出席できない方は必ず委任状を提出することを留意願いたい。
    - ② 学術集会に対する補助金の増額について話された。現行では、春の学会に対して 100 万円、秋の学会に対して 50 万円の補助金が出されているが、これでは到底足りるものではない。財務状況をみて、補助金額を設定していくことになる。
  3. 岡田保典副理事長・常任理事 (学術委員会・研究推進委員会・編集委員会)
    - ① 学術委員会
      - 1) 学術奨励賞の応募件数を増やすことに関して本賞の周知促進のため、春期学術集会においてポスター発表をお願いする。「Pathology International」「診断病理」の編集長よりの推薦を受け、選考において考慮することとした。
      - 2) 宿題報告=日本病理学賞 (The Japan Pathology Award) の応募に関しては、これまでの自薦に加えて、他薦による応募を可能にすることとした。
    - ② 研究推進委員会
      - 1) 第 4 回病理学会カンファレンスは、小川勝洋先生 (旭川医科大学病理学 教授) を世話人とし、平成 19 年 7 月 27 日・28 日に「肝臓疾患の現状と課題」をテーマに開催される。  
第 5 回病理学会カンファレンス (平成 20 年) は、梅澤明弘先生 (国立成育医療センター研究所 部長) を世話人とし、「再生医学・幹細胞 (仮題)」をテーマに開催される。
      - 2) 第 7 回技術講習会は、落合淳志先生 (国立がんセンター東病院) を世話人に秋期特別総会の前日に開催される。第 8 回以降も継続することを確認し、内容と方向性について審議する。

## ③ 編集委員会

- 1) Pathology International: 2007年の投稿数は283編で昨年より増加し、論文採択率は50%前後である。Blackwell社とWiley社との合併の予定であるが、編集・刊行に関しては今まで通り変更はないようである。宿題報告はThe Japan Pathology Award LectureとしてPathology Internationalに掲載することにした。
- 2) 診断病理: 第24巻が順調に編集集中である。新編集長として、向井萬起男先生(慶應大病理診断部)が選出された。
- 3) 剖検輯報: 第48輯の編集が順調に進行している。

## 3. 黒田 誠常任理事(病理専門医部会)

## ① 病理専門医制度運営委員会

- 1) 施設審査委員会報告  
認定施設では188施設からの更新申請があり、184施設が認可された。  
登録施設では90施設からの更新申請があり、89施設が認可された。
- 2) 委員の交代をおこなった。  
試験委員1名、資格審査委員3名、施設審査委員4名。
- 3) モデル事業の現状報告  
全国7地域で実施し、45件解剖をおこない17件報告済みである。報告までには平均7ヶ月かかっている。「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性」については、厚生労働省でパブリックコメントを募集している。
- 4) 平成19年度病理専門医試験は、7月28日・29日東京医科歯科大学にておこなわれる。  
また、3月3日・4日に細胞診講習会は開催済みである。受験申請時には、細胞診講習会の受講証明と死体解剖資格取得が必須であるが、細胞診専門医取得者については、今後講習は免除とすることとした。

- 5) 生涯学習単位認定申請が2件あり、いずれも参加5単位で認可した。

## ⑥ 医療業務委員会

- 1) コンサルテーション小委員会  
コンサルテーションガイドラインの改定(特に依頼書の整備)をおこなった。  
コンサルテーションボード(平成19年度、20年度)決定した。  
コンサルテーションの診断についての最終責任は依頼者にあることを確認した。

## 2) 社会保険小委員会

平成20年度の診療報酬改定に向けた要望をとりまとめている。病理診断の独立(第13部としての新設要望)を最重要項目とする。

## 3) 精度管理小委員会

病理診断依頼用紙のガイドライン作成や、病理診断報告様式のガイドライン作成をおこなうことにする。

## 4) 癌取扱い規約小委員会

改定作業が進行中の規約としては、卵巣腫瘍と脳腫瘍がある。

## 5) 地域医療ネットワーク小委員会

病理医の適正配置については、業務量の調査を支部委員会と連携しておこなう。

## 6) 病理診断体制専門委員会

標榜科の実現について厚労省と交渉中であるが、患者の流れがないので実現は難しい可能性があること、今後の交渉に関する見通しについては先方からの連絡待ちである。

## 7) 生検針によるいわゆるネクロプシーは剖検輯報に記載を認めないこと、専門医受験資格としても50体に含めないことを確認した。

## 8) 法的にホルマリンの取扱いが変わり、濃度1%以上の液を使用する場合には講習を受けた取扱い従事者が必要になること、保管に関する設備が必要であること、年1~2回の作業環境測定が必要になることなどが定められる予定であるため、対応が必要である。

## 4. 新名誉会員の推戴について

平成19年度における新名誉会員は、下記の34名が推戴された。

(ABC順)

足達 敏博	秦 順一	神代 正道	須田 耕一
荒川 正博	今井 重信	小西二三男	鈴木 恒道
栗井 通泰	伊藤 悦男	松陰 宏	竹内 純
衛藤 光明	岩政 輝男	三浦 妙太	津田 暢夫
藤倉 敏夫	岩田 隆子	森松 稔	辻 浩一
藤澤 泰憲	城下 尚	村尾 烈	若林 隆
濱口 欣一	菊池 正教	長嶋 和郎	渡辺 昌
浜崎 豊	北川 知行	中村 隆昭	原 満
小林 庸次	坂元 吾偉		

## 5. 新学術評議員の決定について

平成19年度新学術評議員は、下記の31名に決定した。

(ABC順)

知念 克也	藤吉 行雄	福村 由紀	後藤 朋子
羽尾 裕之	林 宏行	東 美智代	石井源一郎

泉 浩	久山 佳代	前西 修	松林 純
宮川 文	三好代志子	水谷 喜彦	棟方 哲
村上 雅人	永田 耕治	中守 真理	成田 道彦
大石 善丈	岡本 賢三	大城 久	佐藤 仁哉
白石 淳一	下川 怜子	武井 英博	東海林琢男
上原 剛	全 陽		

## 6. 平成 18 年度学術奨励賞の授与について

平成 19 年 3 月 14 日の総会席上長村理事長から、第 8 回(平成 18 年度)学術奨励賞受賞者 工藤保誠(広島大学)、岡部光邦(名古屋市立大学)、齋藤 剛(東京医科大学)、仙波秀峰(神戸大学)、に賞状および記念品が授与された。

## 7. 定款細則の改定について

役員の設定に関する定款細則について、理事会および総会(平成 19 年 3 月 14 日)にて承認されたので以下に掲載する。この細則は平成 19 年 3 月 14 日制定・施行される。定款施行細則(第 3 章役員を選任 第 10 条)

旧 役員(理事 監事)は、就任時年度内の年令が満 63 歳以下の者とする。

新 役員(理事 監事)は、就任時の年令が満 63 歳以下の者とする。

## 8. 役員一覧(平成 19 年 4 月現在)

### 1. 理事および監事(任期:平成 20 年 3 月 31 日まで)

理事長	長村 義之
副理事長・常任理事	岡田 保典
副理事長・理事	深山 正久
常任理事	真鍋 俊明
常任理事	黒田 誠
理事	青笹 克之
理事	林 良夫
理事	樋野 興夫
理事	井内 康輝
理事	中島 孝
理事	中沼 安二
理事	根本 則道
理事	小川 勝洋
理事	坂本 穆彦
理事	笹野 公伸
理事	澤井 高志
理事	居石 克夫
理事	恒吉 正澄
理事	堤 寛
監事	松原 修
監事	手塚 文明

## 9. 各種委員会の委員構成(平成 19 年 4 月現在)

委員の一部に交代があり、委員会の構成は以下のとおりとなった。

### 1. 企画委員会

深山正久(委員長)、岡田保典、真鍋俊明、黒田 誠、坂本穆彦、堤 寛、笹野公伸、中島 孝、中沼安二

### 1-2. 若手医師確保に関する小委員会

大橋健一(委員長)、羽場礼次、茅野秀一、鬼島 宏、北川昌伸、長嶋洋治、笹島ゆう子、鈴木 貴、田村浩一、谷山清己

### 2. 広報委員会

坂本穆彦(委員長)、岡田保典、深山正久、真鍋俊明、黒田 誠、林 良夫、小川勝洋、恒吉正澄、堤 寛、藤井丈士、望月 眞、谷山清己

### 3. 財務委員会

真鍋俊明(委員長)、岡田保典、深山正久、黒田 誠、深山正久、坂本穆彦、笹野公伸、恒吉正澄

### 4. 学術委員会

岡田保典(委員長)、深山正久、真鍋俊明、黒田 誠、青笹克之、林 良夫、樋野興夫、坂本穆彦、居石克夫、高橋雅英、立松正衛、高松哲郎、内藤 眞、佐藤昇志、安井 弥、当該年春期総会会長(真鍋俊明)、当該年秋季特別総会会長(植田規史)

### 4-2. 学術奨励賞選考委員会

樋野興夫(委員長)、青笹克之、黒田 誠、中沼安二、小川勝洋、岡田保典、居石克夫、恒吉正澄、堤 寛

### 5. 研究推進委員会

樋野興夫(委員長)、岡田保典、深山正久、北川昌伸、白井智之、高橋雅英、安井 弥、加藤光保、横崎 宏

### 6. 編集委員会

恒吉正澄(委員長)、岡田保典、深山正久、真鍋俊明、樋野興夫、根本則道、坂本穆彦、堤 寛、高橋雅英、根本則道、向井万起男

### 6-2. Pathol Int 常任刊行委員会

高橋雅英(委員長)、藤本純一郎、福嶋敬宜、原田孝之、廣瀬隆則、石田 剛、城 謙輔、森永正二郎、本山悌一、向井 清、中谷行雄、中里洋一、野口雅之、落合淳志、小田義直、岡田保典、大島孝一、坂元亨宇、佐野壽昭、佐多徹太郎、清水道生、滝澤登一郎、堤 寛、都築豊徳、上田真喜子、梅村しのぶ、横山繁生、吉野正

### 6-3. 剖検情報委員会

根本則道(委員長)、藤原 恵、市原 周、楠美嘉晃

### 7. 病理専門医制度運営委員会

黒田 誠(委員長)、根本則道、笹野公伸、堤 寛、石黒信吾、森永正二郎、森谷卓也、仁木利郎、梅村し

- のぶ, 橋本 洋, 清水道生, 田村浩一, 向井万起男
- 7-2. 病理専門医試験委員会  
清水道生 (委員長), 仁木利郎, 福永真治, 坂元亨宇, 安田政実, 菅間 博, 森 正也, 内藤善哉
- 7-3. 病理専門医資格審査委員会  
森永正二郎(委員長), 森谷卓也, 安田政実, 石田 剛, 岩田 純, 都築豊徳
- 7-4. 病理専門医施設審査委員会  
橋本 洋 (委員長), 石黒信吾, 長谷川匡, 中村栄男, 中村眞一, 大倉康男
- 7-5. 病理診断講習会委員会  
清水道生 (委員長), 森谷卓也, 横山繁昭, 増田友之, 内藤善哉, 白石泰三, 寺田信行, 吉野 正, 竹屋元裕
- 7-6. 「診断病理」編集委員会  
向井万起男 (委員長), 蛇澤 晶 (副), 小松明男 (副), 笹島ゆう子 (副), 若林淳一, 江村 巖, 内藤善哉, 白石泰三, 寺田信行, 吉野 正, 横山繁生 (以上支部編集委員)
- 7-7. 病理専門医部会報編集委員会  
清水道生 (委員長), 堤 寛 (副), 望月 眞 (副), 三代川斉之, 岩間憲行, 梅村しのぶ, 全 陽, 富田裕彦, 藤原 恵, 小田義直
8. 医療業務委員会  
根本則道 (委員長), 真鍋俊明, 中島 孝, 澤井高志, 松野吉宏, 清水道生, 廣川満良, 湊 宏, 大橋健一
- 8-2. コンサルテーション小委員会  
森永正二郎(委員長), 手島伸一, 加藤良平, 松野吉宏, 田中祐吉
- 8-3. 社会保険小委員会  
稲山嘉明 (委員長), 逸見明博, 熊坂利夫, 森 正也, 大倉康男, 佐々木 毅, 横山宗伯, (顧問: 原 正道, 水口國雄)
- 8-4. 精度管理小委員会  
羽場礼次 (委員長), 鬼島 宏, 長嶋洋治, 大林千穂, 清水禎彦, 和田 了, 柳井広之
- 8-5. 剖検・病理技術小委員会  
谷山清己 (委員長), 明石 巧, 筑後孝章, 長谷川剛, 万代光一, 仲里 巖, 山城勝重, 柳井広之
- 8-6. 癌取扱い規約小委員会  
坂本穆彦 (委員長), 伊藤以知郎, 森永正二郎
- 8-7. 地域病理ネットワーク小委員会  
井内康輝 (委員長)
- 8-8. 病理診断体制専門委員会  
水口國雄 (委員長), 羽山忠良, 岸川正大, 小松明男, 大橋健一, 嶋田裕之, 田村浩一, 安田政実
9. 口腔病理専門医制度運営委員会  
林 良夫 (委員長), 根本則道, 朔 敬, 高田 隆, 山口 朗, 井上 孝, 出雲俊之, 豊澤 悟
- 9-2. 口腔病理専門医試験委員会  
出雲俊之 (委員長), 朔 敬, 山口 朗, 井上 孝, 豊澤 悟
- 9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会  
朔 敬 (委員長), 高田 隆
10. 教育委員会  
堤 寛 (委員長), 青笹克之, 井内康輝, 羽場礼次, 伊藤浩史, 鬼島 宏, 下 正宗, 田村浩一
11. 国際交流委員会  
笹野公伸 (委員長), 根本則道, 福永真治, 三上芳喜, 長嶋洋治, 梅村しのぶ, 荒川 敦
12. 支部委員会  
小川勝洋 (委員長), 澤井高志, 中島 孝, 中沼安二, 青笹克之, 井内康輝, 居石克夫
13. 倫理委員会  
井藤久雄 (委員長), 岡崎悦夫, 武村民子, 堤 寛, 伊藤雅文, 本山悌一, 長嶋洋治, 増井 徹(外部委員), 中島みち (外部委員), 宇都木伸 (外部委員)
14. リスクマネジメント委員会  
井内康輝(委員長), 野々村昭孝, 長村義之, 坂本穆彦, 児玉安司 (外部委員)
15. 医療関連死関係専門委員会  
黒田 誠 (委員長), 深山正久 真鍋俊明, 森 茂郎, 根本則道, 野口雅之, 岡崎悦夫
16. プログラム推進委員会  
青笹克之 (委員長), 岡田保典, 深山正久, 黒田 誠, 清水道生, 梅村しのぶ, 村田哲也
- 10. 平成 19 年度病理専門医研修施設 (認定施設) 更新機関**  
(第 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28 184 施設)
- 期間 2 年間 平成 19 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
- 第 2 回 認可 (13 施設)**
- | 認定番号 | 施設名                   |
|------|-----------------------|
| 2005 | 山形県立中央病院              |
| 2006 | (財) 竹田綜合病院            |
| 3019 | 埼玉県立がんセンター            |
| 3020 | (財) 癌研究会有明病院          |
| 3021 | JR 東京綜合病院             |
| 3022 | 国家公務員共済組合連合会虎の門病院     |
| 4007 | 新潟市民病院                |
| 4008 | 名古屋第一赤十字病院            |
| 4009 | 独立行政法人国立病院機構金沢医療センター  |
| 5009 | 大阪府立急性期・総合医療センター      |
| 5010 | 独立行政法人労働者健康福祉機構大阪労災病院 |

7002 九州厚生年金病院  
7003 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター

#### 第4回 認可 (2施設)

認定番号	施設名
3028	日本赤十字社医療センター
4010	長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院

#### 第6回 認可 (6施設)

認定番号	施設名
3035	越谷市立病院
3037	社会保険船橋中央病院
3039	総合病院国保旭中央病院
3040	東京都立清瀬小児病院
4015	長野赤十字病院
5017	奈良県立奈良病院

#### 第8回 認可 (9施設)

認定番号	施設名
3045	公立学校共済組合関東中央病院
3046	東京都立府中病院
4017	静岡県立総合病院
4018	社会保険中京病院
5019	(財)日本生命済生会附属日生病院
5020	兵庫県立西宮病院
5021	兵庫県立淡路病院
6017	広島市立安佐市民病院
7009	佐賀県立病院好生館

#### 第10回 認可 (10施設)

認定番号	施設名
3002	群馬県立がんセンター
3052	伊勢崎市民病院
3054	東京都済生会中央病院
4024	長岡赤十字病院
4025	富士市立中央病院
4026	聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
4027	富山県立中央病院
5012	(財)住友病院
5025	大阪府立母子保健総合医療センター
7011	北九州市立医療センター

#### 第12回 認可 (10施設)

認定番号	施設名
3060	(株)日立製作所日立総合病院
3061	東京歯科大学市川総合病院
3062	東京都立墨東病院

3063	公立昭和病院
3064	恩賜財団済生会横浜市南部病院
4030	公立陶生病院
6019	松山赤十字病院
7012	特定医療法人雪の聖母会聖マリア病院
7013	熊本市立熊本市市民病院
7014	宮崎県立宮崎病院

#### 第14回 認可 (11施設)

認定番号	施設名
2015	(財)温知会会津中央病院
3069	茨城県立中央病院・地域がんセンター
3070	医療法人社団千葉県勤労者医療協会船橋二和病院
3071	東京都立大塚病院
3072	東京警察病院
3073	医療法人社団健生会立川相互病院
4034	藤枝市立総合病院
4035	松波総合病院
4036	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院
5033	NTT 西日本大阪病院
6021	広島赤十字・原爆病院

#### 第16回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
1010	JA 北海道厚生連旭川厚生病院
2016	山形市立病院済生館
2017	盛岡赤十字病院
3076	独立行政法人労働者健康福祉機構東京労災病院
3077	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
5037	医療法人医仁会武田総合病院
7017	大牟田市立総合病院

#### 第18回 認可 (13施設)

認定番号	施設名
3079	総合病院土浦協同病院
3080	さいたま市立病院
3081	国立がんセンター東病院
3082	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
4016	総合病院名古屋第二赤十字病院
4042	黒部市民病院
4043	豊橋市民病院
4045	小牧市民病院
5040	大阪市立総合医療センター
5041	独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
6023	島根県立中央病院
6024	高松赤十字病院
7019	佐世保市立総合病院

**第20回 認可 (4 施設)**

認定番号	施設名
3086	財団法人東京都保健医療公社 (東京都立) 荏原病院
4047	聖隷三方原病院
5043	市立岸和田市民病院
5044	独立行政法人国立病院機構神戸医療センター

**第22回 認可 (35 施設)**

認定番号	施設名
1011	旭川赤十字病院
1012	KKR 札幌医療センター
2021	独立行政法人国立病院機構弘前病院
2022	独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院
2023	仙台市立病院
2024	東北厚生年金病院
2025	石巻赤十字病院
2026	秋田赤十字病院
3048	さいたま赤十字病院
3051	横須賀市立市民病院
3092	茨城県済生会水戸済生会総合病院
3093	独立行政法人労働者健康福祉機構鹿島労災病院
3096	(財) 東京都保健医療公社大久保病院
3097	医療法人財団河北総合病院
4003	愛知県がんセンター
4005	富山市立富山市民病院
4019	岐阜県立多治見病院
4050	社団法人山梨勤労者医療協会甲府共立病院
4051	諏訪赤十字病院
4054	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院
4055	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
5022	和泉市立病院
5024	市立豊中病院
5047	社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院
5048	東大阪市立総合病院
5049	公立豊岡病院
5051	日本赤十字社和歌山医療センター
6008	香川県立中央病院
6025	松江赤十字病院
6026	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院
6027	徳島赤十字病院
7008	鹿児島市立病院
7018	国家公務員共済組合連合会浜の町病院
7021	福岡赤十字病院
7022	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター

**第24回 認可 (12 施設)**

認定番号	施設名
1006	独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
2029	米沢市立病院
3104	独立行政法人国立病院機構栃木病院
3106	桐生厚生総合病院
4059	独立行政法人国立病院機構松本病院
4060	済生会新潟第二病院
5007	兵庫県立尼崎病院
5063	社会保険神戸中央病院
5064	神戸市立西市民病院
5065	滋賀県立成人病センター
7025	公立八女総合病院
7026	医療法人白十字会佐世保中央病院

**第26回 認可 (24 施設)**

認定番号	施設名
1023	北海道立小児総合保健センター
1024	医療法人溪仁会手稲溪仁会病院
2032	青森市民病院
3047	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院
3094	医療法人社団東光会戸田中央総合病院
3111	利根保健生活協同組合利根中央病院
3112	独立行政法人国立病院機構水戸医療センター
3113	埼玉県済生会川口総合病院
3114	社団法人北里研究所北里研究所病院
3115	社会福祉法人慈生会慈生会病院
3116	日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院
3117	川崎市立井田病院
3118	財団法人神奈川県警友会けいゆう病院
4066	愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院
4067	新潟県立新発田病院
4068	高岡市民病院
5068	彦根市立病院
5069	医療法人徳洲会宇治徳洲会病院
5070	医療法人社団洛和会洛和会音羽病院
5072	独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター
5073	独立行政法人労働者健康福祉機構和歌山労災病院
6034	高松市民病院
7032	千鳥橋病院
7033	医療法人社団新日鐵八幡記念病院

**第28回 認可 (28 施設)**

認定番号	施設名
1009	社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院
2036	みやぎ県南中核病院
3123	公立藤岡総合病院



3124	深谷赤十字病院
3125	埼玉社会保険病院
3126	埼玉県立小児医療センター
3127	財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカルセンター病院
3128	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
3129	浦安市市川市民病院組合浦安市市川市民病院
3130	(財)東京都保健医療公社多摩南部地域病院
3131	石心会川崎幸病院
4020	独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院
4072	富山赤十字病院
4073	富山県済生会高岡病院
4074	JA 長野厚生連小諸厚生総合病院
4075	静岡県立清水病院
4076	愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院
4077	半田市立半田病院
4078	稲沢市民病院
5050	医療法人社団新日鐵広畑病院
5079	医療法人生長会ベルランド総合病院
5080	国家公務員共済組合連合会大手前病院
6037	徳島県立中央病院
6038	鳥取市立病院
6039	福山市医師会総合健診センター
6040	独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
6041	独立行政法人国立病院機構広島西医療センター
7037	社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会八幡総合病院

## 11. 平成 19 年度病理専門医研修施設（登録施設）更新 機関

（第 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28  
89 施設）

期間 2 年間 平成 19 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

### 第 2 回 認可（5 施設）

登録番号	施設名
3028	総合病院厚生中央病院
3029	川崎医療生活協同組合川崎協同病院
4022	静岡赤十字病院
4024	浜松赤十字病院
5018	(社) 明石市医師会立明石医療センター

### 第 4 回 認可（4 施設）

登録番号	施設名
5024	公立南丹病院
6011	水島協同病院
6012	高知赤十字病院
7018	宮崎社会保険病院

### 第 5 回 認可（7 施設）

登録番号	施設名
2011	秋田県立脳血管研究センター
3036	医療法人社団順江会江東病院
4002	市立島田市民病院
4028	市立岡谷病院
4030	高山赤十字病院
7021	公立学校共済組合九州中央病院
7025	総合病院鹿児島生協病院

### 第 8 回 認可（3 施設）

登録番号	施設名
3055	横浜市立みなと赤十字病院
5034	西宮市立中央病院
6016	下関市立中央病院

### 第 10 回 認可（5 施設）

登録番号	施設名
3058	神奈川県厚生農業協同組合連合会伊勢原協同病院
3060	神奈川県立循環器呼吸器病センター
4042	名古屋記念病院
5036	市立吹田市民病院
7030	鹿児島市医師会病院

### 第 12 回 認可（1 施設）

登録番号	施設名
4047	医療法人(社団) 中信勤労者医療協会松本協立病院

### 第 14 回 認可（7 施設）

登録番号	施設名
2016	津軽保健生活協同組合健生病院
5044	独立行政法人労働者健康福祉機構神戸労災病院
5045	西脇市立西脇病院
6018	岡山医療生活協同組合総合病院岡山協立病院
6019	財団法人永頼会松山市民病院
7033	国家公務員共済組合連合会新小倉病院
7034	独立行政法人労働者健康福祉機構熊本労災病院

### 第 16 回 認可（4 施設）

登録番号	施設名
4058	愛知県厚生農業協同組合連合会加茂病院
7037	福岡市立こども病院・感染症センター
7038	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
7039	医療法人同心会古賀総合病院

**第18回 認可 (7施設)**

登録番号	施設名
3078	東芝病院
4064	長野県立こども病院
4065	土岐市立総合病院
5049	医療法人川崎病院
6025	独立行政法人国立病院機構福山医療センター
6029	済生会今治病院
7040	鹿児島県立大島病院

**第20回 認可 (1施設)**

登録番号	施設名
4073	済生会松阪総合病院

**第22回 認可 (11施設)**

登録番号	施設名
1018	苫小牧市立総合病院
2010	岩手県立宮古病院
4076	独立行政法人国立病院機構長野病院
4077	医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
5060	公立甲賀病院
5065	医療法人きっこう会総合病院多根病院
6002	国家公務員共済組合連合会広島記念病院
6037	独立行政法人国立病院機構善通寺病院
6038	社会福祉法人済生会松山病院
6039	済生会西条病院
6040	愛媛県立今治病院

**第24回 認可 (7施設)**

登録番号	施設名
1021	江別市立病院
1022	滝川市立病院
3089	国保匠瑤市民病院
3091	神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院
4083	磐田市立総合病院
5068	社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院
6041	独立行政法人国立病院機構高知病院

**第26回 認可 (14施設)**

登録番号	施設名
1023	独立行政法人労働者健康福祉機構岩見沢労災病院
2025	市立秋田総合病院
2027	公立気仙沼総合病院
3096	社会保険群馬中央総合病院
3097	群馬県済生会前橋病院
3099	社会保険山梨病院
4087	社会福祉法人聖霊会聖霊病院

4088	医療法人偕行会名古屋共立病院
4090	国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院
5074	独立行政法人国立病院機構滋賀病院
5075	医療法人宝生会 PL 病院
5077	鐘紡記念病院
6044	公立学校共済組合中国中央病院
6045	財団法人津山慈風会津山中央病院

**第28回 認可 (13施設)**

登録番号	施設名
1025	名寄市立総合病院
1026	総合病院北見赤十字病院
1027	JA 北海道厚生連帯広厚生病院
1028	医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
2028	福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院
3100	独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院
3101	社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院
4094	伊那中央病院
4095	独立行政法人労働者健康福祉機構旭労災病院
5080	医療法人景岳会南大阪病院
6049	財団法人倉敷成人病センター
7047	宮崎県立日南病院
7054	大分赤十字病院

**12. 会員の訃報**

武内 忠男 名誉会員 (平成19年5月24日ご逝去)

---

**お知らせ**


---

**1. 第1回 横浜乳腺病理診断研究会について**

日時：平成19年7月14日 (要事前申し込み 50名)  
 会場：横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター  
 講師：坂元吾偉先生  
 連絡先：横浜市立大学市民総合医療センター 病理部  
 担当 佐々木 毅  
 〒232-0024 横浜市南区浦舟町4-57  
 TEL：045-253-5323 FAX：045-253-5383  
 E-mail：takesasa@yokohama-cu.ac.jp

**2. 第 18 回前立腺がんワークショップについて**

日 時：平成 19 年 9 月 28 日（金）

会 場：国立がんセンター国際研究交流会館 3 階国際会議場

連絡先：三重大学医学系研究科腫瘍病態解明学講座

白石 泰三

〒 514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

TEL：059-232-1111 FAX：059-231-5210

**3. 黒住医学研究振興財団第 15 回（平成 19 年度）研究助成金の募集について**

申込み締切り：平成 19 年 6 月 30 日

連絡先：（財）黒住医学研究振興財団 事務局

〒 113-8408 文京区本郷 1-33-8

栄研化学（株）内

TEL：03-3812-3173 FAX：03-3813-2206

E-mail：info@kmf.or.jp

**4. 第 39 回（2007 年度）内藤記念科学振興賞候補者の推薦について**

申込み締切り：平成 19 年 10 月 1 日

連絡先：（財）内藤記念科学振興財団

〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-42-6

NKD ビル 8 階

TEL：03-3813-3005 FAX：03-3811-2917

E-mail：naitofound@naito-f.or.jp

**5. 第 11 回日本医療情報学会春季学術大会について**

会 期：平成 19 年 6 月 15 日～6 月 16 日

会 場：大阪国際交流センター

連絡先：第 11 回日本医療情報学会春季学術大会事務局

〒 701-0193 岡山県倉敷市松島 288

川崎医療福祉大学医療情報学科内

TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1109

E-mail：infoJAMI-s@hitec02.mw.

kawasaki-m.ac.jp

**6. 第 27 回医療情報学連合大会について**

会 期：平成 19 年 11 月 23 日～11 月 25 日

会 場：神戸コンベンションセンター

連絡先：第 27 回医療情報学連合大会事務局

〒 663-8501 西宮市武庫川町 1-1

兵庫医科大学医療情報部内

TEL：090-1443-2708 FAX：0798-45-6734

E-mail：jcmi27@medinfo.hyo-med.ac.jp



# 日本医学会だより

JAMS News

2007年5月 No. 37  
日本医学会

## 日本医学会医学用語辞典 英和 第3版改訂

改訂第3版は、日本医学会の事業として医学用語管理委員会により編纂されたわが国の標準ともいべき医学用語集である。第3版は特にMeSH (Medical Subject Headings), UMLS (Unified Medical Language System) にも照らし世界水準の用語の適合を目指した。また日本医学会分科会の協力を得て各分科会の選定用語を広く採用し、整理・統合した集大成であり、かつ最新の医学用語を採り入れた。また改訂第3版で新しく取り入れたことの1つに推奨語の決定がある。従来から同じ医学英語でも分科会によって翻訳の日本語が異なっていたため、従来の版では複数の日本語訳をつけていた。しかし改訂第3版では英語に対応する日本語が複数ある場合には、優先的に使用すべき日本語を推奨語と決定し、医師国家試験の出題などに際して、受験者が混乱しないような努力を払った。本辞典が医学界で広く利用され、教育、研究、医療などの実際に役立つことが期待される。

## 第4回日本医学会公開フォーラム

「医学・医療の今—がんに挑む—肺がん」をテーマに、2007年6月9日(土)13:00~16:00、日本医師会大講堂において開催(組織委員長:垣添忠生国立がんセンター名誉総長)する。市民を対象にした第4回公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://www.med.or.jp/jams/>)のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。

プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. 禁煙の重要性/中村正和(大阪府立健康科学センター 健康生活推進部長)
2. 診断の進歩と問題点/金子昌弘(国立がんセンター中央病院 内視鏡部医長)
3. 手術療法の進歩/岡田守人(広島大学原爆放射線医科学研究所 腫瘍外科)
4. 肺がんの薬物療法/岡本 勇(近畿大学医学部 腫瘍内科)
5. 患者の立場から—肺がんと私/曾我ひとみ

## 第132回日本医学会シンポジウム

「わが国の臓器移植—現状と問題点」をテーマに、2007年8月2日(木)13:00~17:00、日本医師会大講堂において開催。組織委員は、大島伸一、寺岡 慧、門田守人の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://www.med.or.jp/jams/>)のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

序論/大島伸一(国立長寿医療センター)

1. 各種臓器の移植の現状/寺岡 慧(東京女子医大・外科学)
2. 移植待機患者の現状/福寫教偉(大阪大・移植医療部)
3. 脳死臓器提供の現状と問題点/有賀 徹(昭和大・救急医学)
4. 生体移植の現状と問題点—生体肝移植ドナー予後調査をふまえて—/里見 進(東北

大・外科学)

5. 渡航移植の現状と問題点/小林英司(自治医大・臓器置換研究部)
6. 臓器移植法案改正の動向/河野太郎(衆議院議員)

### ◆医学賞・医学研究助成費

平成19年度日本医師会医学賞・医学研究助成費の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項概略は以下のとおり。詳細は本会に問い合わせ下さい。推薦期間は、5月15日～7月5日。

医学賞：1. 日本医師会会員で、医学上重要な業績をあげた研究者を対象とする。2. 基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ計3名に授与する(副賞は1名500万円)。3. 推薦は、日本医学会分科会長、大学院医学系研究科長または医学部長・医科大学長、大学附属病院長(本院)、関係機関長、都道府県医師会長により各部門1名以内。

医学研究助成費：1. 日本医師会会員が行う医学上将来性に富む研究を対象とする。2. 基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ15件に授与する(1件150万円)。3. 推薦は、日本医学会分科会長、大学院医学系研究科長または医学部長・医科大学長、大学附属病院長(本院)、関係機関長、都道府県医師会長により各部門1名以内。

### ◆日本医学会への加盟申請

平成19年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日に締め切る。申請書は、日本医学会ホームページからダウンロードできる。

### ◆第74回日本医学会定例評議員会

平成19年2月21日開催の評議員会において、高久会長から「就任して2期の半ばになるが、日本医学会あり方委員会でいろいろ検討してきた。その検討の一部には部会の構成の件がある。またそれ以外には、医療界全体の多くの

方が働く大学病院、あるいは病院の医療が非常に危機的な状況にある。病院勤務医が非常に厳しい状況に置かれている。裁判の問題もあり、異状死の取り扱い、さまざまな問題がある。日本医学会としてもその問題に関しても積極的に取り組む必要があるということで議論された。

なお従来、日本医師会から援助されていた各学会の20万円については、むしろ各学会ではなくて日本医学会のほうに一括して、日本医学会の活動、特に社会に対する発言のために必要な委員会等の仕事に活用したい趣旨を唐澤日本医師会長にお話し、了承を得た。各学会にも連絡の上、ご了承いただいたと理解している。

今後、医学会として行わなければならない事柄が山積していると思うが、随時各学会のほうからサジェスチョンをいただければ、日本医学会としてできるだけの努力をしたいと考えている」と挨拶した。

また今年度の本会への新規加盟は、日本乳癌学会が加盟した。

### ◆第27回日本医学会総会

大阪にて、第27回日本医学会総会(平成19年4月6日～8日)が開催された。

開会式、閉会式は、大阪の特性を生かした素晴らしい式典であった。今総会は、講演の数をしぼり、幅広く違った分野を知るという観点から、シンポジウムとパネルで構成された。特別講演には、日本の経済学の第一人者と言われる宇沢弘文氏、そして大阪が生んだ世界的な建築家・安藤忠雄氏、医師で宇宙飛行士の向井千秋氏の講演があった。特に、学術講演のなかでは、今一番大きな問題ともなっている「今日の医学教育、医療制度の問題点とその改革」について、さまざまな分野の方からの意見交換があった。この講演の意義は、これから先の問題を提起することにあつた。また医学生と研修病院とのマッチングの催しを、京セラドーム、大阪球場で行った。また、一般公開の展示、EXPO 2007にも多数の参加者があり、盛会裏に終了した。